

図書館計画で書庫を どう考えたらいいのか

講師：寺田芳朗氏 (株)寺田大塚小林計画同人

(図書館建築・都市計画コンサルタント)

主催：特定非営利活動法人共同保存図書館・多摩

寺田芳朗さんは、時々の図書館界の考えと自治体や市民の要望に向き合ってきました。1980年代からの活発な図書館新設の中で、緻密な計画と計算に基づき大きな仕事をしてられました。神奈川県大磯町、福岡県苅田町、佐賀県伊万里市、埼玉県小川町、千葉県君津市、福島県南相馬市などの建築を手掛けられ、これらは開館後の運営や利用も含め、今でも見るべき図書館とされています。

当初は（新しい運営経験が図書館界に乏しく）保存や書庫への関心が薄い時もありましたが、経験が全国に蓄積される中で、利用と保存を意識した書庫が図書館計画、建築上で認識されるようになります。寺田さんも「公開書庫」を提案しています。しかし資料運用、開架と書庫の関係など、よき図書館を作るためにはさらに議論が深まる必要があるとおっしゃいます。

多くが開館4～50年を迎える多摩の各市には、新築、移転あるいは廃館を含めた図書館再編の話題があります。そんな中、議論を重ねた「多摩市立図書館本館再構築基本構想」が決まり、同市HPで公表されています。寺田さんはこの策定委員会で支援コンサルタントを務められました。お話は、もちろん書庫だけの議論ではありません。

どこの図書館職員にも市民にも参考になると思います。ぜひおいでください。

日時：2018年8月6日（月）午後6:30—8:45

**会場：立川市女性総合センター・アイム5階 第2学習室
（JR立川駅北口 中央図書館のビル）**

資料代：500円

定員：36人（会員以外の方も参加できます）

特定非営利活動法人共同保存図書館・多摩

〒182-0011 調布市深大寺北町 1-31-18

●HP：<http://www.tamadepo.org/>

●E-Mail：depo_tama@yahoo.co.jp

第33回多摩デポ講座での図書館(活動と場)についてのお話

平成30年8月6日 立川市女性総合センター5F第2学習室

「図書館計画で書庫はどう考えたらいいか？」

いくつかの街の図書館づくりに参画して学んだこと 寺田大塚小林計画同人代表 寺田芳朗

プロフィール：寺田芳朗 / 株式会社 寺田大塚小林計画同人 代表取締役
日本建築家協会会員(登録建築家) / 日本図書館協会会員
1978年横浜国大大学院修了、都市設計・建築意匠専攻。大学在学時に故佐藤仁教授に図書館計画の薫陶を受ける。和設計事務所・山手総合計画研究所在籍中に設計監理を担当した図書館は、神奈川県大磯町立、福岡県刈田町立、佐賀県伊万里市民、沖縄県名護市立、滋賀県愛知川町立、同人設立後、埼玉県小川町立、千葉県君津市立中央、長崎県たらい図書館、福島県南相馬市立中央図書館。学校図書館を中心とした都立館、夢学園校舎、大分県竹田市図書館基本構想、多摩市図書館基本構想、基本計画支援。

<話題提供・メモ>

1. 1974「図書館を学び初めて」。

- ①佐藤仁著「公共図書館」→ 最初の設計課題 図書館はひとつの建築ではないと教わって。
- ②日野こども、木曾/金森、町田市町田、昭島市、日野市、相模原市、を目の当たりに → 和設計に

2. 図書館システムの成長と「保存図書館」。

- ①成長の問題(拡張計画)・・・当時の計画優先度と書庫の位置づけ。10年先までの計画。
- ②保存図書館の紹介・・・海外事例の紹介、時代の優先度、現実的感覚、思考停止、
- ③基準法改正前の積層書庫・・・神奈川/長崎/山梨 → 書庫の建築基準法的扱いを指摘、

3. 1973「日野市立図書館の時代と書庫論」。

- ①日野市立図書館「建設計画書」の全文紹介 → 5万冊の書庫計画、優先する分館網、
- ②前川著作集「図書館の変革」→梅棹忠夫「無料貸本屋 / 閲覧室も 書庫も 要らぬのです」
→ いまもうっすらとした図書館界の通奏底音か(苅田町で、多摩市で、・・・利用側視点)

4. 1983大磯町立の観察から1990苅田町立図書館の書庫提案へ。

- ①大磯町立図書館の7年、地下の開架書庫へ利用者を案内、「開架は開架の延長/奥行き」という展開
- ②1800㎡図書館で4万冊100㎡のプログラムへの疑問 → 二色の利用を積層させた100㎡8万冊書庫

5. 図書館計画の状況を俯瞰して、苅田で議論した問題意識。

- ①図書館施設面積の拡大傾向と、日野市立型の拡大コピーの時代。書庫はいつまでも本の倉庫。
- ②開架か閉架か二者択一の問題。開架につながる奥行きの資料世界 / 閉架のグラデュエーション 提案

※貸出密度日本一の鳩山町立図書館での話。

6. 1993伊万里市民図書館での書庫提案。

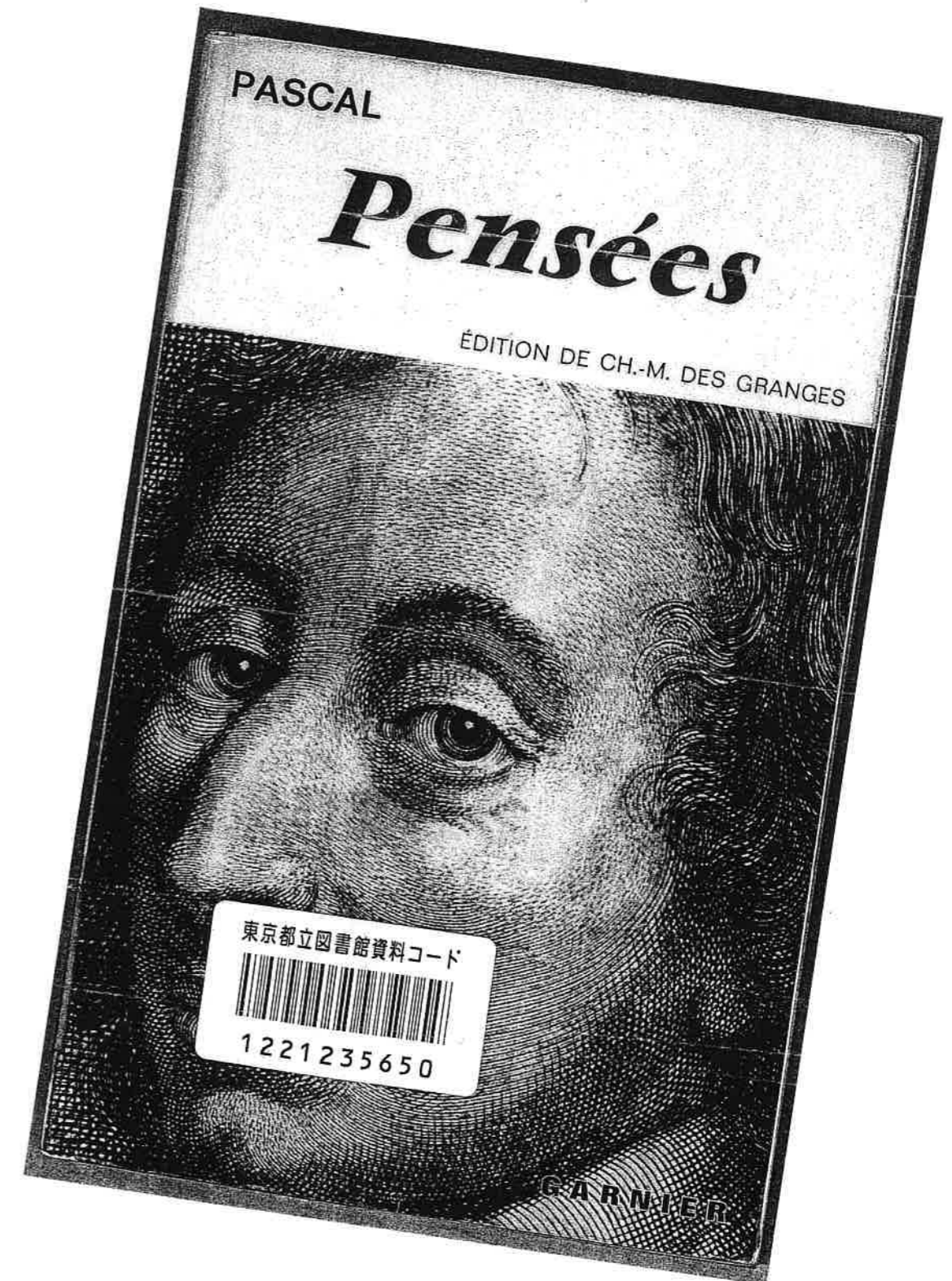
- ①大切な基本計画 → 展望の薄い30万書庫(ずーと空部屋・倉庫使い・出来れば入れたくない本の墓場) 法
- ②開架書庫の分化 → 見えて入れる10万書庫 と 見せない20万書庫。配架分類書替え、雑誌主題ブック
- ③利用型書庫 → 居室へ 本の森(机椅子のある君津) 準開架(開架の主題群と対応する南相馬)

7. 図書館計画と、法律と、安全(危機管理)。

- ①建築基準法や消防法の扱い、図書館という特例緩和、利用や運営形態の変化と安全条件の劣化
- ②防火区画、スプリンクラー、異種用途複合、・・・賑わい創出建築の図書館としてのゆくえ/寿命 既存不適格化

8. 「共同保存図書館・多摩」の活動と場を想像する。

- ①利用者の活動範囲の有無(諸室)、配送センターに純化、用途複合性、管理運営体制、装備統一MARC/IC、
- ②書庫は：接架式か機械式か、収容規模と拡張イメージ、利用者接架で難度上がる。(居室/ハリアリ/省エネ)



・ずいぶん前に頂いた「装備の例示」考察資料(展示型書架の開発と 図書装備への配慮)
・パンセ/ちっほけな人間は、自身の死と宇宙の無限を想像できる「考える葦」だという。
・沈黙は金、図書館と図書館員のいまを、パスカルと利用者に見えるかのラベルの張り方。